

Multilingual Electronic Newsletter

多言語メールマガジン

かごしま南の風便り

Kagoshima Southern Wind Tidings



VOL.196

▽トピックス

1 国際交流員のコラム（鹿児島県国際交流員 トウ・レイカ）

●奄美大島で大自然と伝統の響きを探る-Part.1-

2 知事の動き

●舞劇「朱鷺」鹿児島公演を鑑賞しました。（3月8日）

●鹿児島かつおPRプロジェクト委員会の皆様が訪問されました。（3月17日）

●鹿児島ハワイラニ実行委員会の代表等が訪問されました。（3月19日）

3 観光かごしまのイベント情報

●かごしまマラソン（3月2日）

●鹿児島県内の桜が見頃を迎えました（3月末から4月初旬）

国際交流員のコラム

●奄美大島で大自然と伝統の響きを探る Part. 1●

—鹿児島県国際交流員 鄧麗霞（中国出身）—

あっという間に3月を迎え、1年間の国際交流員の仕事を締めくくる時期を迎えました。鹿児島県庁で仕事をする上で、何度も鹿児島には2つの世界自然遺産を有する日本で唯一の都道府県であることを耳にしました。帰国する前に、ぜひその世界自然遺産の魅力を自分の目で確かめたいと思っていたところ、3月に鹿児島県の離島へ取材に行くチャンスに恵まれました。それで、2021年に世界自然遺産に登録された「奄美大島・徳之島、沖縄島北部及び西表島」のうちの1つである奄美大島を訪れました。

今回の取材には、鹿児島国際大学経済学部の高上先生のタイミングが合い、同行していただきました。飛行機は約50分間海上を飛び、奄美大島空港に着陸する直前、エメラルド色の海が目飛び込んできました。

私と高上先生は二人とも初めての奄美大島訪問で、わくわくしながら奄美パーク行きのバスに乗り込みました。奄美大島は非常に温暖な気候で、乗客の中には3月なのにも関わらず半袖の人もいらっしゃいました。私たちが「奄美パーク」で降りるべきか「奄美パーク入口」で降りるべきか悩んでいたところ、乗車していた男性（この方は既に半袖でした😊）が親切に、奄美パークで降りた方が近いと教えてくれました。



「奄美パーク」の入口



パイナップルのようなアダン

奄美パークでは、奄美の亜熱帯植物を鑑賞できるほか、「奄美の郷」や「田中一村記念美術館」などの施設もあります。「奄美の郷」では、奄美の美しい自然や多様な文化、歴史、民俗が紹介されています。私は、奄美の伝統的な年中行事が紹介されたテーマウォールに興味を持ち長い間立っていました。奄美の伝統行事は多くが旧暦で行われ、その中でも特に盛大に行われるのは、旧暦8月15日の「十五夜豊年祭」だということを知りました。十五夜豊年祭は、一年間の農作物の収穫を祝うとともに、集落の無病息災に感謝する行事です。この日に中国では

「中秋節」として満月を楽しみながら、秋の豊作と家族の幸福を祝う「十五夜豊年祭」とよく似た伝統的な行事が行われます。「十五夜豊年祭」以外にも、

約 40 枚の行事の写真が展示されており、島民たちが自然と共生し、真面目に生活している様子が伝わってきました。

また、奄美パークの一角には、田中一村記念美術館があります。田中一村は、奄美で彼を知らない人はほとんどいないほど非常に有名な画家です。彼は奄美の自然を愛し、亜熱帯の植物や花鳥を鋭い観察眼と優れた画力で描き、作品の中に独特の世界を作り上げていました。美術館では、田中一村の作品に加えて、他にも「奄美へ」という奄美に関する要素を取り上げた企画展も楽しむことができました。

奄美パークのお土産として、田中一村の作品が使われたポストカードを購入しました。当日、パーク内のホールでは奄美パーク春祭り「サンガツサンチ」のための演奏会が開催され、そこで島唄を聴くこともできました。



高倉をイメージしたパーク内の建物



大島紬資料館

奄美パークでの視察が終わり、土浜バス停の近くにある「大島紬資料館」と「大島紬美術館」に見学に行きました。スタッフが実物と織機の操作を交えながら、大島紬の複雑な製造工程を分かりやすく紹介してくれました。大島紬を作るには、30 以上の非常に細かい工程が必要であり、一反の織物が完成するために、数十人の職人が半年から一年間という長い時間をかけて、織り上げています。その手間かかる作業に驚嘆していた時、大島紬美術館を運営している社長が案内に来てくれました。

大島紬美術館は広大な海に面しており、リゾートホテルも併設されています。1 階のホールで青い海を眺めると、旅の疲れが一掃されるほど心地よかったです。2 階の美術館では、田中一村の名作をもとに織られた大島紬などが芸術品として展示されています。ここでは、本場の大島紬に触れることができ、織物を使った着付け体験もさせてもらいました。本場の大島紬は軽くて動きやすく、また通気性と保温性に優れている上に、シワにもなりにくく、長持ちするそうです。

その高価な値段には理由があることを知ることができました。



田中一村の絵が使われた大島紬

1日目の取材が終わり、奄美市内へ移動しました。夕食をどうしようか悩んでいたところ、「喜多八」という島料理のお店に入ることができました。地元の野菜や海鮮、鶏肉、豚肉、そして黒砂糖のデザートまで、大満足の食事を楽しめました。店を出る前に、着物の折り紙に包まれた爪楊枝と名刺をいただきました。こんなに可愛い爪楊枝を使ってしまうのはもったいなくて、お土産にしました。



着物の折り紙に包まれた爪楊枝

2日目は、奄美黒糖焼酎「竜宮」を製造している富田酒造を見学しました。四代目の社長が、75周年を迎える会社の歴史や黒糖焼酎の製造工程について説明してくれました。黒糖へのこだわりや、大きなタンクの代わりに1つ1つ甕を使って土着の菌を活用し、米麹を発酵させるという製法が特徴だと聞きました。そのため、甕によって焼酎の味や香りが少し異なることもあるそうです。焼酎に関する知識をまた1つ身につけることができました。



甕で発酵する黒糖焼酎

黒糖焼酎の醸造見学が終わると、大島支庁の職員が迎えに来てくれて、「奄美世界遺産センター」と「黒潮の森マングローブパーク」に向かいました。センターには、奄美大島の森の空間を再現した展示室があり、奄美の象徴ともいえる「アマミノクロウサギ」がどのように独自の進化を遂げてきたのか、その過程を動画で分かりやすく示してくれました。



先頭に立った私たちのカヌー

展示室の見学が終わると、黒潮の海でカヌー体験をすることになりました。泳げない私は最初少し不安でしたが、実際は非常に楽しかったです😊

最初はまだカヌーの漕ぎ方に慣れていない人が多く、うまく方向をコントロールできず、お互いにぶつかったりしており、私たちもなかなか前に進めませんでした。しかし、私と一緒に乗った康上先生と同時に同じ側の水を漕いだことで、カヌーがスイスイと進み、列の先頭に立

つことができました。やはり、力を合わせて1つになって漕ぐことが大切だと実感しました。

途中水路が多岐にわたり、一部の水路は太平洋側に繋がっています。世界一周の旅行にならないようガイドさんの指示に従い、行動することが大切です😊

一方、湾内は静かで底が見えるほど清らかな水域であり、自然との一体感を感じながら、風や波の音を感じることができ、とても心地良かったです。30分後、ゴールに着いてガイドさんに記念写真を撮ってもらいました。

復路は干潮の時間で、水域が往路よりも狭くなり陸地が増えたことで黒い泥から蟹が出て来るところを見ることができました。私たちは兩岸の鷺を見たり、水中の魚を見たりしながら出発点に戻りました。このカヌー体験は美しい自然に囲まれながら、リラックスできる素晴らしい体験になりました。



ゴールに着いて一休憩

次号 (197 号) へ続く・・・

知事の動き

●舞劇「朱鷺」鹿児島公演を鑑賞しました（3月8日）●

舞劇「朱鷺」を鑑賞しました。

日中友好の象徴である「トキ」をモチーフした本公演は、両国友好の更なる発展を願って、日中共同で制作されたそうです。

セリフや歌を使わず、身体表現や舞台芸術の美しさを追求した舞台は、ダンサーたちの舞踊技術の高さと、肢体の美しさに引き込まれる圧巻の芸術作品でした。上海歌舞団のみなさんは、実際に動物園でトキの動きを観察し、表現に取り入れたそうです。本公演を通じて、日中両国の友好が更に育まれますことを祈念いたします。



▲上海歌舞団の皆様と



▲舞劇「朱鷺」の様子

●鹿児島かつおPRプロジェクト委員会の皆様が訪問されました（3月17日）●

県内カツオ関係事業者の皆さまが「鹿児島かつおPRプロジェクト委員会」立ち上げの報告のため、県庁を訪問されました。

発起人代表の山実水産有限会社山口憲一郎代表取締役からは「鹿児島、枕崎、山川3港の関係者が一体となってカツオや鰹節をPRし、盛り上げていきたい」と力強いお言葉をいただきました。

また、塩田知事は朝獲れカツオのお刺身や鰹節を使った茶節、カツオを使ったコロッケを試食させていただいておりました。

委員会の皆さまが一丸となって県産カツオ等の更なるPRに取り組まれることで、県内外、ひいては海外の方々にも鹿児島かつおを美味しく食べていただくことを期待しています。



▲鹿児島かつお PR プロジェクト委員会の皆様と



▲カツオに関する商品の試食の様子

●鹿児島ハワイラニ実行委員会の代表等が訪問されました（3月19日）●

アートを通じて鹿児島の魅力を国内外に発信している鹿児島ハワイラニ実行委員会の今林代表と、ハワイの著名な3Dアーティストであるテフレル・ポーター氏が、イベントの報告のため、県庁を訪問されました。

今回のイベントで初めて鹿児島を訪れたポーター氏は、鹿児島を大変気に入られたようで、今後も、機会があれば鹿児島を訪れて、各地でアート活動をしたい旨、おっしゃっていただきました。

ポーター氏には、多くの観光客が目にする鹿児島空港のスカイデッキの壁面に縄文杉や犬の門蓋、ウミガメなど本県の離島の魅力を描いていただきました。この作品が多くの方の目に触れて本県の魅力をさらに感じていただきますとともに、本イベントにより、本県観光の振興と街づくりが推進されることを期待します。



▲今林代表、テフレル・ポーター氏との
歓談の様子



▲鹿児島空港スカイデッキに描かれた
テフレル・ポーター氏の壁画

観光かごしまの旬の情報

●鹿児島マラソン（3月2日）●

鹿児島マラソンは、桜島と錦江湾の織りなす雄大な風景や、県内随一の繁華街である天文館、明治時代の産業革命遺産、西郷隆盛像など鹿児島の街並みの中を、鹿児島県のおいしい食べ物を堪能しながら走ることができます。

マラソンを通して、鹿児島の魅力を存分に感じることができる大会です。



▲当日のランナーの皆様と沿道の応援者の様子

「©鹿児島マラソン実行委員会事務局」

●鹿児島県内の桜が見頃を迎えました（3月末から4月初旬）●

鹿児島市の吉野公園をはじめとして、伊佐市の忠元公園、いちき串木野市の観音ヶ池市民の森、薩摩川内市の新田神社など、県内各地で桜が満開の花を咲かせ、桜が見頃を迎えました。

ライトアップや沿道沿いの出店など、花見を楽しむための催しも各地で多く実施されております。



▲▶ 忠元公園内の桜並木と、沿道沿いの様子「©ULTRA-C」





いよいよ4月、新年度が始まりましたが、皆様いかがお過ごしですか？

新しい環境に戸惑うことや、うまくいかずに気持ちが沈むこともあるかもしれませんが、少しずつ慣れていく中で、きっと楽しさややりがいも感じられるようになるはず
です🎵

無理せずに一歩ずつすすんで行きましょう！

「かごしま南の風便り掲示板」では、次の鹿児島に関する話題を募集・掲載いたします！

鹿児島らしさを感じる写真や海外で見つけた鹿児島の写真を募集いたします。写真の簡単な説明を添えてお送りください(例: 克灰袋の山)。

鹿児島県の生活に関する情報をご共有ください(例:つけあげのおいしい食べ方、火山灰の対処法)。

▲▽▲▽ 記事提供・お問い合わせ先 ▲▽▲▽

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10-1

電話番号:+81-99-286-2306

FAX 番号: +81-99-286-5522

英 語:cir1@pref.kagoshima.lg.jp

中国語: cir2@pref.kagoshima.lg.jp

韓国語: cir3@pref.kagoshima.lg.jp

日本語: minami@pref.kagoshima.lg.jp

本記事の著作権は鹿児島県に属します。無断での再配信、転載及び掲示板等への掲載は禁止します。